

地域密着型サービス評価の自己評価票(2階 フロア)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	理念を基に、3つの項目を掲げ取り組んで行こうと考えている。「気軽に近隣の方に笑顔で挨拶をしよう」「町内清掃に参加し中丸町をきれいな町にしよう」「町内花壇を近隣の方と一緒に花を植え花いっぱい町にしよう」
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		左記同様にて継続して行う。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	地域に対しての理念の浸透があまり出来ていないため、地域推進運営会議を活用し、地域の方と接点を持つことができるようにと考えている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		左記同様にて継続して行う。また、近隣の方々が立ち寄っている際は、こちらから声を掛けたり、お茶をお出しするなどふれあう機会を多くしていきたいと考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	左記同様にて加えて、地域の新聞又は広報誌などで情報を収集し積極的に行事に参加していけるように考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は、随時見学の方や、認知症の相談・在宅生活での悩みを受け入れ対応している。	○	左記同様に加えて、町内での奉仕作業などに参観し地域に貢献できればと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を職員は目を通し、改善点を明確にし、ミーティングを行い改善に向けて努めている。		左記同様にて継続する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ運営推進会議が一度しか行われていない為、職員に浸透しておらず、まだサービス向上に活かす事が出来ていない。	○	今後の運営推進会議で取り上げられてた検討事項や案を、ミーティングなどで話し合い、職員が理解できるように取り組んでいきたいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今のところ運営推進会議以外に取り組んでいない。		現時点で1回のみ開催の為今後職員にも参加してもらえよう回を重ねていきたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は制度を理解しており、対応が必要な利用者の家族には支援しておる。職員は、権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会が無く、職員の中では知識不足である。	○	今後二つの制度に関しての研修、勉強会を行い職員の理解力を高めていきたいと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連について学ぶ機会はないが、職員が理解しやすいように書面化されているファイルが作成されている。随時管理者よりは、虐待について指導され、職員は意識してケアを行っている。	○	今後勉強会を行い、高齢者虐待防止法に関する理解を深め、ケアの向上に努めていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。面談時に得た情報や何を中心として支援すべきか又はどのような生活を望んでいるか等の相談内容を具体的に説明される。		解約については未だ無いが、随時話し合いが必要なケース時はご家族やフロアのスタッフからの情報を基に今後の改善や見直し等を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必ず面会時には、こちらから家族に声をかけ、利用者が何か意見をされていなかったか確認している。その際家族から意見が出た場合は、すぐにミーティングを行い改善策を話し合い取り組んでいる。又日頃のコミュニケーションの中で、生活に不満はないか利用者に聞き、何か不満を話されたときは、上記同様に対応している。随時管理者には報告し、指導し		左記同様にて継続する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、必ずこちらから家族の方に声をかけ、最近の生活の様子や、受診の結果、外出した際に撮影した写真をお見せし報告している。職員が金銭管理している利用者の方には、金銭の報告をしている。		左記同様にて継続する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置している。年に2回家族会を開催し、気軽に話せる場を作っている。又管理者は、面会の際家族の方に声をかけを不満や要望を聞いている。苦情や不満が聞かれた際は、管理者を含めてのミーティングを行い、改善に努めている。		左記同様にて継続する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開催しており、意見交換の場を設けている。又毎日の申し送りの際にも、管理者は職員の意見を聞き改善に努めている。		左記同様にて加えて、管理者と職員の交流を深めることを目的として、今年から親睦会を年2回開催予定し、職場以外での関係作りを行っている。既に1度実行し、管理者とも話しやすくなったとの意見を聞いている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が勤務表作成を行っている。要望に柔軟に対応ができるように、現場職員から情報を収集し勤務の調整を行っている。職員の急病や急な休みにも現場職員の意見を聞き、随時対応している。		左記同様にて継続する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。管理者は離職の回避の為個人面談を行ったり、現場職員の意見を聞き入れたりしているのだが、離職者が多いのが現状である。その為、異動の時期や引継ぎの面では、ダメージが最小限になるように配慮している。		左記同様にて継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧板で回し、情報を職員に促している。又職員会議の際には、勉強会を設け職員の質の向上に努めている。	○ 今後法人内での研修を設け、多くの職員が受講できるように考えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では、取り組んでいない。	○ 今後、研修などで他の事業所との接点を持つようにこちらから積極的声をかけ、交流する機会を設けていきたいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気をくばり、気分転換できるようにと、休憩室を確保している。休憩時間は、現場職員が取りやすい時間に取れるよう時間の指定はさづ、現場職員に一任している。	左記同様にて継続する。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回個人の取り組み表を作成して、個々の取り組み内容を把握している。そして普段の勤務姿勢を加味し評価している。	左記同様にて継続する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	1対1でのコミュニケーションの時間を多くとり、どんな小さなことでも聞き入れている。その場にいた職員には必ず申し送りしどの職員も対応がすぐ出来るように情報を共有している。	左記同様にて継続する。月に1度の職員ミーティングの際には、職員全員で振り返りを行っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居する際に管理者・ケアマネは、家族との面談の機会を何度か設け要望を聴いており、そこで出た情報は必ず現場職員に申し送られる。家族が不安に思っている事に関しては、随時情報を伝え安心して生活できるように努めている。	左記同様にて継続する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、管理者・ケアマネが家族と面談を行いその時が必要なのか見極め、可能な限りの対応行っている。その際の情報は現場職員に申し送られ、情報を共有し知応している。内容に応じては、管理者、ケアマネを含めて話し合う機会を設けている。		左記同様にて継続する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	『体験入居』といった宿泊のサービスのやデイサービスが併設されている為、その人の状況に合わせて家族と本人に相談しながら、サービスを活用し、少しずつでも馴染んで頂けるように支援している。		左記同様にて継続する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どんな状況においても職員は本人の話を聴き入れ、気持ちを受け止められるように努めている。又本人や家族から聞いた情報を基に、職員が学ぶような環境をつくり、お互い支えあいながら生活できるように支援している。		左記同様にて継続する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、こちらから声をかけ些細な情報でも伝え、意見交換をし、家族との信頼関係を深め、一緒に本人を支えられるように努めている。		左記同様にて継続する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居する際に本人と家族の関係がどのような関係だったかは情報を得ている。その情報を基に家族、本人の思い状況を見極めながら一緒に過ごす機会を設け、より良い関係の継続に努めている。外出する際付き添いの要望があった際は快く対応している。		左記同様にて継続する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の広報誌と一緒に本人の直筆の手紙を入れたり、写真などを定期的に送り、こちらでの生活の様子を伝えている。また、本人の行き着けのお店や、同窓会に参加し、旧友の方々の交流を図っている。		左記同様にて継続する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、常に平等の立場であることを意識し、利用者同士が関わりやすいように声かけ等に配慮している。		左記同様にて継続する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近隣の施設へ移設したとき等は、施設の協力を得、様子を伺いに行くことが多くある。当ホームでどのように対応していたのかなど施設側に意見を求められることもあり、ご本人が慣れるまで情報の共有を図ることも多々ある。		他の施設への移設後、ご家族から近況報告の連絡を受けたり、「近くまで来たから」と気軽に立ち寄って頂くこともある。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関りの中から、言葉・表情・行動をよく観察し、今の気持ちや意向を把握し、本人に確認をするようにしている。得た情報は、生活記録に残し、ミーティングにて話し合いをしている。		左記同様にて継続する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居するには必ず、本人や家族から今までの生い立ちや生活環境を聴き、個人カルテ保管し、いつでも職員が閲覧できるようにしている。日々生活しているなかで、足りない情報があった際は、その都度家族に情報の協力を求めている。		左記同様にて継続する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昔の生活状況を元に、一人一人の生活のペースを把握し本人の状態や状況に合わせて負担にならないように支えている。		左記同様にて継続する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活の中で課題やケアのあり方で話し合いの場作り、職員把握するが介護計画に反映されていない。	○	管理者、ケアマネジャーの指導をうけ、意見が反映出来るように介護計画を作成していく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直しができていない。	○	ケアマネジャーの協力のもと改善していく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも記録に記載し、重要事項は毎日の申し送りで情報の共有に努めている。その中でも改善点に関しては月に一度のフロアーミーティングの際話し合いを行っている。		左記同様にて継続する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居している方の中には、ご家族の希望にあわせ逆デイをしている。又現段階で短期入所の指定がない為体験入居として、入居の待機者には今後につなげ少しずつ馴染のある場所としデイサービスのご利用やそのままお泊りできるよう支援している。		入居している方の自宅への外泊が以前に比べ少ない。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎週ボランティアの方がお見えになり、歌や体操を行ってくださる。	○	左記同様にていろいろなボランティアの方を増やしの選択肢を増やしていければと考える。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設への移設や入院時等の情報交換等は積極的に行っているが在宅へ戻られるケースがあまりない。		デイサービスの利用者が体験入居を利用する場合、ケアマネジャーとの連絡調整は頻回に行い、体験終了後にどのように生活されていたか、報告は行っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの活用はない。権利擁護に関するご家族からの質問には、随時管理者及び相談員が窓口となっている。		権利擁護について学ぶ機会が少なくスタッフの周知は少ない。今後の改善すべき学習内容としたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的を受診しをしており、その都度医師には本人の思いや、家族の希望を健康状態と共に情報を送っている。週に1度訪問看護に来てもらい、相談・報告を行い健康チェックを行っている。		左記同様にて継続する。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の病院に定期的に受診し、その都度どんな小さな事でも情報として伝え、何時でも相談出来るように関係作りを行っている。		左記同様にて継続する必要がある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一度訪問看護が来てくださり、利用者一人一人の健康状態を把握してくださり、その都度職員に指示をもらい対応している。また平日は、併設のデイサービスに看護師が常駐している為、何かあった際は相談し、指示をもらっている。		左記同様にて継続する。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院する際は、施設での生活の様子をしっかりと伝え入院中も一日、二日置きに面会にいき、出来るだけ本人が不安にならず治療が出来るように努力している。管理者も毎日病院に足を運び病院と事業所との連携をはかっている。		左記同様にて継続する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の思いを個々に聴き、記録に残している。	○	個々の思いを職員が共有出来ていないため、もう一度職員に申し送りを行い浸透させていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点で2階フロアでの看取りの経験がない。他のフロアでの看取り時にはしゃらく会議やフロアミーティングを通して状況の説明や協力はしている。		自分達のフロアで看取りの時期が来ることをふまえ、入居者の方々の思いを日々聞き入れる努力をしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所する際は、ケアサマリー作成し手渡すと共に、情報交換を行い、本人のダメージを最小限になるように努めている。		左記同様にて継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りをする際は、利用者がいない場所い申し送りを行っている。それぞれにあった名前や声の大きさをコミュニケーションをはかる心がけている。記録に記載する際は、名前ではなく、イニシャルで記入している。	左記同様にて継続する
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いを伝えられるように、声の大きさや言葉遣い、話すテンポに配慮し、複数の選択肢を提案し、利用者が自分で決定できるように場面作りをしている。	左記同様にて継続する
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日をどのように過ごしたいのか会話の中から聞き出し、出来る限り希望にそった支援をしている。	左記同様にて継続する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	それぞれの行きつけ美容室に希望時行けるよう行っている。また本人が望んでいる髪型や髪の色に職員が出来る限り行っている。	左記同様にて継続継続する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳等それぞれに役割ができており、職員が声をかけなくても自然に行っている。広告を見て、旬の野菜と一緒に買いに行き、調理法を教わりながら、一緒に調理している。	左記同様にて継続継続する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きなきに買い物し、自分が食べたいと思ったときに食べてもらえるように、時間の指定など行っていない。	左記同様にて継続継続する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を利用し、時間や習慣を把握したうえで排泄介助を行っている。出来る限りトイレでの排泄を心がけており、状態に応じて職員二人にて排泄介助を行っている。		左記同様にて継続継続する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望で曜日が決まっている方もいる。他の方は、最低週2回入浴できるようにしている。その際は、本人の希望時に入浴され、時間は本人と話しあって決めている。また、お好みで入浴剤を使用し、くつろげる環境づくりをしている。		左記同様にて加えて、季節的なもの取り入れて更に心身ともにくつろげるようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならるように、一人一人のペースに合わせて休息時間を作っている。状態に応じて和室にて休んで頂いている。		左記同様にて継続継続する。日中適度な運動を行っても、夜間眠れない場合は、医師に相談し、日中の活動に影響しない程度に薬等処方している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族より情報収集した生い立ちを活かし、畑や植木の水やり、クスの日付書き、縫い物などその人の出来ること継続して行っている。		左記同様にて継続継続する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理の出来ない方は、職員が預かり買い物時には、職員が付き添い本人に財布を渡し自分でお金を払ってもらえるように支援している。		左記同様にて継続継続する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自分で使う物は、自分で購入しに行くように支援し、又外出希望時には、その人が行きたい場所へ外出している。		左記同様にて継続継続する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事予定表を作成し外出する機会を増やしている。、又一人一人話し合い個人的に計画を立て外出している。	○	利用者の方とは外出している機会が多いが、ご家族と一緒に外出する機会が少ないため、ご家族面会時にこちらから声をかけし、今後予定を立てていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時にて電話をかけている。また毎月の広報紙を送る際、利用者様に直筆で手紙を書いて頂いている。		左記同様にて継続継続する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家人、知人の方の面会時は、お茶や施設での写真などをだし状況に応じて職員が入り楽しい時間を過ごす事が出来るように配慮している。		左記同様にて継続継続する。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事として理解しているが、「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」としての詳しい内容に関しては理解にはかけている。	○	法令を元に勉強会を行い、どのようなケースの場合のみ「拘束」をしなければならないのか、その際には、どのような書類が必要か、家族にどのような形で承諾を得るのか理解しなければならないと考えている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は、本人希望時施錠している。その他に自分で鍵を所有している方がいるので、自由に施錠出来るようになっている。玄関は常に解放さえており、自由に出入りが可能である。		左記同様にて継続する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員同士声を掛け合い、所在の確認をしている。夜間は、時間ごとの巡視の他に、状態に応じて巡視し安全の確認を行っている。		左記同様にて継続する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物はなくさず、職員がその場を離れてしまい不在になった時のみ、手の届かない場所に物品を移動し危険防止に努めている。消毒薬に関しては、毎日消毒管理表にチェックし管理している。		左記同様にて継続する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対応マニュアルをもとに対応している。事故が起きた際には、事故報告書を作成しそれを元に話し合い一人一人の状態に応じた事故防止に努めている。事故当日に、家族に報告し謝罪している。	○	改善策を明確に文章化し、どのように職員に職員に伝達したか書面に残していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力得て、定期的に指導、研修を受けている。又すぐに対応出来るようにマニュアルが作成されている。		左記同様にて継続する。今後、当事業所職員だけではなく、家族会にて話し参加を呼びかけている。また近所方々の参加も促す事を検討している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。又近隣の飲食店に許可を得ており何かあった際の避難場所を確保されている。		左記同様にて継続する。近隣には、事前に避難訓練を行う事を伝えている。その際、近所の飲食店店主は「もしもの時は避難場所に使って」と場所を提供してくださっている。今後は書面にて、近所の方が一緒に参加して頂きたい事を伝えようと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	日常生活の中で見えてきたリスクに関して、管理者に報告・相談し今後どのように対応していけばよいのか指導してもらっている。		左記同様にて継続する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週に一度訪問看護にきて頂いている。その際バイタルチェックを行い、一週間の状態を報告し指示を頂いている。日々の体調の変化には注意し必ず申し送りで情報を共用している。		左記同様にて継続する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時処方箋がでた際は必ず職員は目を通すようにしている。内服変更の際には、医師に注意点をきき、管理者に報告、しっかりと職員に申し送りを行い注意している。処方箋のコピーを事務所に保管し、管理者がすぐにわかるようにファイリングしている。		左記同様にて継続する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因をしっかり把握し、その人にあった対処方法を見つけ対応している。すぐに薬に頼らず、腹部マッサージや乳製品を多く飲んで頂き対応している。		左記同様にて継続する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には朝、夕食後には行っている。その人の口腔内の状況に合わせて昼食後行うこともあり、状態に応じて歯科受診を指導していただいている。		左記同様にて継続する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表に、食事の際の水分量・塩分・脂質の量が記入され食事の栄養バランスを知ることができる。水分量も1000ccが摂取目安となっており、その人に合わせて水分摂取量は考えて行っている。食事量・水分量は記録しチェックしている。		左記同様にて継続する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対してのマニュアルが作成してあり、それを元に予防している。		左記同様にて継続する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1ヶ月2回食器の消毒を行い、また台ふきん、まな板の消毒を行っている。冷蔵庫内の食材チェックも毎日行い衛生面に気を付けている。		左記同様にて継続する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口周辺の庭には、一年を通して楽しめるように植木や花が植えられており、玄関にも季節折々の花が常に置かれている。いつでも観賞出来るように入口解放され、ベンチやテーブルが設置されている。玄関先には、各階の職員の顔写真が掲示されており、どこの職員かすぐ分かるようになっている。		左記同様にて継続する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースが南がに面しており、常に自然の光が差して明るい環境である。女性しかいないフロアの為女性らしい空間作りを意識している。		左記同様にて加えて、利用者」の作品や思い出の写真を飾り、家庭的な雰囲気を加えていきたいと考えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自リビング内で「お気に入りの場所」があり定着している。それによって気の合う仲間と会話を楽しんでいる。		左記同様にて継続する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで利用していた家具、使い慣れた物を安全面に考慮し配置、くつろげる環境作りをしている。		左記同様にて継続する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日一回は喚起を行い、空気循環を行っている。目につく場所に温度計を設置し、夏25℃、冬22℃気温設定している。気温湿度を確認し環境を整えている。		左記同様にて継続する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ必要な箇所には手すりがほとんど設置されており、少しでも自分の足で歩く事が出来るように環境が整っている。個人的に手すりの希望が合った場合はすぐに設置し住みやすい環境作りを行っている。		左記同様にて継続する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人が理解しやすいように、日付の書き方や物の保管の仕方、声のかけ方に配慮し混乱を招かないように努めている。		左記同様にて継続する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには何時でも楽しめるように季節の花を植え、庭には気軽にくつろげるように、テーブルとイスが設置されている。季節の野菜の栽培が出来るように、家族会の方が畑を耕してくだせり、いつでも自由に使える環境になっている。		左記同様にて継続する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・認知症ケアについては日々悪戦苦闘しているが、入れ代わりが激しく中々定着しない職員体制に職員一人ひとりが、このままでは働く側がいつも「環境を変えている」という不安を持つようになり始め個々に切磋琢磨している。